

海神会 関東支部便り (No.13)

商船学部から海事科学部へ

海神会関東支部 支部長 森本靖之

大学統合により商船学部が海事科学部として生まれ変わって早や 12 年が過ぎ、世の中の変化も加速され、将棋や囲碁も、もはや人間が AI に歯が立たなくなってしまった。陸を走る自動車、海上を往く船も AI が操縦する時代も夢物語ではなくなった。

そんな時代の到来を予見してか、最近では旧商船大系の学部から海上職を希望する学生は各校僅か 50 人足らずという現状にある。

一方、大手船社が一般大学の卒業生を対象に新 3 級制度を活用して海上職員を自社養成するようになって 10 年近くが過ぎ、現在一航・機級に就いている。ここ数年、自社養成職員の数が旧商船系の卒業者と拮抗している状況にあるという。船社が自社養成に踏み切った訳は、商船大卒業生の学力、特に英語能力が低く優秀な海上職員が必要であったからだという。

さて、神戸大学との統合による総合大学のメリットを活かした海事科学部を如何に発展させていくか、これから正念場を迎える。海運経営者は、海技者に対して、操船や船舶管理は当然のこと、営業力や提案力、そして創意工夫する力を期待している。

私は現在、日本海洋工学会が主催する“Ship of the Year 賞”の選考委員長を拝命している。かつて同学会の会長を務められた内藤 林 氏（阪大・大学院教授）は、船舶海洋工学会、マリン・エンジニアリング学会、航海学会の 3 学会が、各個ばらばらに表彰の対象を選んでいる現状に対し、これが統合できないものかと熱く語っておられた。世界に負けない船を造るためには、船体を造る人、機関を造る人、船を運航する人、この三者が緊密に連携することが不可欠の要件であると思う。

大学統合の折、当時の神戸大学長は「これで海に開かれた総合大学になれる」と喜ばれた。もう 60 年近くも前、私の入学式において大羽眞治学長が「君たちは船だけではなく、広い海事産業のいろいろな分野に進出して欲しい」と述べられた。船長を夢見て入学した新入生に対してオカシなことを仰るなど思ったが、社会人になってその意味が理解できた。大学教育が職業教育に留まっていけないということ。

今般、神戸大学「海洋底探査センター」が深江キャンパスに設置され、深江丸を活用して海底火山の調査が開始された。本紙には商船大学時代に原子動力科を指導された小田啓二副学長が「船舶を活用した災害対応活動支援」と題して大災害発生時への対応に関する論文を寄稿して下さっている。

世界で 6 番目に大きな排他的経済水域を擁する海国日本。その広い大きな海や海底にはお宝が眠っている。これから取り組むべき多くの課題が海に開かれた神戸大学の前途に広がっている。海事科学部の活躍を心から祈りたい。

商船学部を卒業した OB 会員皆様の暖かいご声援をお願いする次第であります。

目次

商船学部から海事科学部へ	1
1. 関東支部定時総会報告	2
2. 上期活動報告・下期活動予定	2
3. 上期決算状況	3
4. 定時総会・懇親会の出席者とスナップ	4
5. My 近況	5
6. 会員往来	10
7. 会員の広場「Bridge」	10
8. 事務局からの願い	11
深江の鐘	11

1. 関東支部定時総会報告（6 月 24 日）

1. 1 海神会本部総会[5/28(土) 於深江]の報告

5 月 28 日（土）15:00～ 総合学術交流棟梅木 Y ホールで開催の海神会総会では、平成 27 年度事業報告、収支決算及び監査報告、平成 28 年度事業計画（案）及び収支予算（案）、「海神会」会則 第 5 章 第 17 条の一部改正などの議案が審議され承認されました。しかし、例年のこと乍ら予算（6,000 千円弱）に予備費を計上できず厳しい予算でした。また、WG で検討された提言・提案は「海神会から海事科学部への提案」として纏められました。

また、懇親会では海神会賞にオフショアセーリングチームが「大型ヨット世界選手権大会」に出場、過去最高の総合 6 位と健闘したことで受賞しました。

1. 2 平成 27 年度事業並びに会計報告・会計監査報告

海神会関東支部便り No.12 に掲載の議案通り承認されました。

1. 4 役員改選

今期(平成 27・28 年度)の関東支部の役員は退任 2 名、新任 3 名で以下の通り承認されました。

支部長:森本 靖之(7N)

事務局長:田中 貴雄(13E) 会計事務担当者:桑田 守(15E)

理 事:福永 陽司(10E)、竹橋 由進(11N)、刈屋 澄世(13N)、佐々木 真己(19N)、

三木 洋(19E)、神杉 恵(21E)、格谷 隆(9T)、

新任理事:須賀 弘(13N)、井手 祐之(14E)、道浦 馨(15E)、

監 事:富久尾 義孝(12N)、上野 俊雄(15N)

顧 問:広瀬 斉(4N)、馬淵 祐二(4E)、廣田 孝夫(5N)の各氏です。

理事退任(本人からの申し出に依る):吉村 耕治(5E)、安藤 雅夫(10E)

長い間、ご支援有難う御座いました。

1. 5 平成 28 年度事業計画並びに会計予算

海神会関東支部便り No.12 に掲載の議案通り承認されました。

1. 6 神戸大学学友会（東京支部）・東京六甲クラブ関係

神戸大学 学友会東京支部代議員:7N 森本、12N 富久尾、13E 田中

神戸大学 東京六甲クラブ 副理事長:7N 森本、理事:13E 田中

行事等は海神会関東支部便り No.12 に掲載の議案通り承認されました。

2. 平成 28 年度上期活動報告・下期活動予定

2. 1 上期活動報告

1) 関東支部幹事会の開催 4 月 27 日、5 月 25 日(関東支部便り No.12 配送準備)

- 2) 海神会総会(5月28日)に役員の派遣:森本支部長、田中事務局長、
- 3) 本部からの支部運営支援金 300,000 円の入金を 6 月 17 日に確認
- 4) 6 月 24 日(金)16 時～理事会、定時総会(参加者数 34 名)、懇親会を開催
- 5) 海洋会行事に協力
- 6) 神戸大東京六甲クラブ/学友会東京支部行事に協力
 - (1) 東京六甲クラブ/学友会東京支部代議員会 5 月 27 日、理事会 5 月 9 日、6 月 3 日、9 月 9 日に出席
 - (2) 東京六甲クラブ創立 50 周年記念事業に協力
 - (3) 関東支部メール便にて東京六甲クラブの紹介、東京六甲クラブ/学友会東京支部行事の案内、学友会ニュースレターの添付
 - (4) 東京六甲クラブで事務局行事、クラス会等の開催
- 7) 関東支部メール便(できるだけ会員に関するニュース)テンポラリー(目標 1 回/月)に約 300 人の会員に、海事科学部の Web、ニュースなどの紹介、会員の活動紹介、東京六甲クラブ/学友会東京支部行事の案内、学友会ニュースレター添付のメール

2. 2 下期活動予定

上期活動を継続し、他の主なものは以下の通りです。

- 1) 関東支部役員会の開催 10 月 4 日(火)15:00～ 於:海運クラブ
- 2) 海神会評議会(10 月 29 日)に役員の派遣:田中事務局長、道浦理事
- 3) 関東支部幹事会の開催 11 月 11 日(関東支部便り No.13 配送準備)
- 4) 11 月末に 16 ページ立てで My 近況、「深江の鐘」欄に掲載した関東支部便り No.13 の発行
- 5) 東京六甲クラブ行事、①10 月 4 日 50 周年記念祝賀会、②12 月 22 日 忘年会、③1 月 7 日 互礼会、④理事会/学友会役員会、12 月 9 日、3 月 13 日

3. 平成 28 年度上期決算状況

平成 28 年度上期決算状況は、以下の通りです。

累計収支差額<現在の預金+手持ち現金> () 内は前年同期

2,067,027 円 (2,003,478 円) と +63,549 円のプラスで推移していますが、終身会費はほぼ計画通りとは云え、支部年会費の集まり具合が低調です。入金額では、終身会費の 1 万円が効いて、それなりの数字が出ていますが、持続可能性という意味では、将来的にやはり苦しい現状です。今年度年分の年会費未納の約 800 名の方に払込取扱票を同封しましたが、全体としての合計金額は 179,000 円(422,000 円)の現状です。

何かと費用多用の折ですが、ご支援、ご協力の程宜しくお願いします。

3. 1 金額の纏め

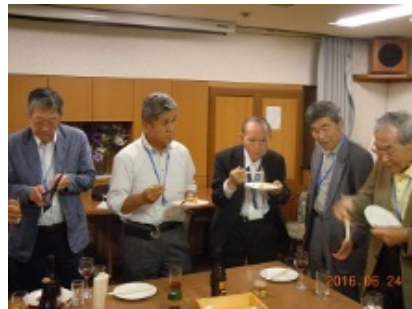
前期繰越金	1,155,961		
前期終身会費	713,000	上期終身会費収入	90,000
上期収入合計	389,008	上期支出合計	280,942
内訳 支部運営支援費	300,000	経費	278,142
支部年会費	89,000	総会懇親会赤字補填	2,800
雑収入	8	(会費収入 99,000 - 会場費等 101,800)	
累計収支差額	2,067,027	(預金 2,067,027+現金 0)	

4. 平成 27 年度 定時総会・懇親会 出席者とスナップ

総会後に会議室をセットしなおし、引き続いて懇親会を開催しました。全方位の同窓会となっておおいに盛り上がり、歓談に華が咲き、お開きまでの時間一杯楽しみました。

出席者

N1 加藤 満 N2 海道 俊雄 N4 庄司 貞義 N4 廣瀬 齊(顧問) N4 門間 善四郎
 N5 廣田 孝夫(顧問) N5 吉川 渉 E5 上田 八郎 E5 吉村 耕治 E6 上村 建二 E6 西村 辰朗
 N7 河原 好功 N7 福知 武 N7 森本 靖之(支部長) E8 秋葉 光宏 E8 東 紀元 E8 北澤 俣一
 E8 山下 恒彦 E11 松尾 健司 N12 富久尾 義孝(監事) N13 須賀 弘(理事) N13 早川 進
 E13 田中 貴雄(事務局長) E13 吉田 隼二 E14 井手 祐之(理事) E14 岡本 建之介(海洋会専務理事)
 E15 桑田 守(理事) E15 道浦 馨(理事) E18 金子 仁 E19 三木 洋(理事) E20 佐田 昌弘(海洋会事務局長)
 E21 神杉 恵助(理事) E22 油原 朗 合計 33 名 注) は懇親会に出席者
 懇親会のスナップ





5. My 近況 (誤読・誤記等ある場合は、ご容赦願います)

- N1 加藤 満 本年 10 月神戸で開催する卒業 60 年クラス会に出席する様、体調管理に努めています。幹事諸兄ご苦労さまです。盛会になります様に。
- N1 桂田 貞美 体調不全のため遠出は禁止されており欠席させて戴きます。ご盛会を祈っています。
- N1 塩川 徹司 心臓病のためゴルフが出来なくなったのは寂しい限りですが、日常生活には支障なく恙なく暮らしております。
- N1 高瀬 一郎 4 年前に脊柱管狭窄の手術をしました。以後経過が良くなく腰痛、足のしびれ等が残念ですが続いております。人間身体の具会うが悪くなりますと消極的になり行動範囲も大変狭くなってきます。死を意識するようになりました。
- N1 吉田 和夫 高齢による体調不良。
- E1 野口 晟奎 女房は治療を続けています。小生は落ち着いた毎日を過ごし植木の世話にも大変な状態です。特に外出は極めて億劫になり、我ながら情けないと思っています。
- E1 降幡 泰夫 最近足腰がすっかり弱くなり、老人であることを自覚せざるを得ない状況ですが、何とか平穏に生きております。
- E1 森作 継男 寄る年波には勝てないが、ボランティアなどぼちぼちやっている。
- N2 中井 貞夫 旅行予定のため欠席します。
- E2 人見 武 今年 6 月 4 日で 83 歳になりました。食事と運動に留意しています。クラスの約 1/3 が物故者になりましたが、頑張っています。
- N3 日下 治夫 幹事の方々、大変ご苦労様です。関東支部のご発展を祈ります。同級生の出席もだんだん減少。馬齢を重ねている次第です。
- N3 杉本 博彦 体調がよければ海洋会の「万歩の集い」に申し込み最後尾を歩きながら新しい発見を体験してもらっています。神戸に住んでいた 2N 山本一誠(元柔道部・OSK・内海水先人)氏は今年 1 月 10 日(土)に 82 歳で、高槻に住んでいた 3N 川北浩(元剣道部・NYK・阪神水先人)氏は昨年 11 月 15 日(日)に 80 歳で逝去しました。
- N3 袴田 宏 当日所用あり欠席させていただきます。82 歳になり年相応に心身共に弱って来ています。下降カーブを少なくするため色々やっています。幹事様ご苦労様です。
- N3 望月 正昭 パーキンソン病末期にかかりました。来し方思いすべてなつかし。
- E3 林 秀彦 年相応の老化現象との対決は余儀なくされているものの、今のところ大病もせず元気になっています。持病の腰痛もあり無理は出来なくなりましたが、趣味のゴルフやテニスも 85 才位迄は続けたいと願っています。
- N4 庄司 貞義 体力の減退を実感させられる事が多くなりましたが、あまり気張らず素直にのんびり暮らす様心掛けています。皆様の御健康を御祈り致します。

- N4 田家 宗雄 5 月始めに脳梗塞を患い、目下療養中。後遺症も大した事なく普通に生活しています。
- N4 中積 郁雄 夫婦共に元気に過ごしております。
- N4 廣瀬 齊 総会、懇親会とも出席しますのでよろしくお願いします。
- N4 松宮 俊明 体調不良のため欠席させていただきます。申し訳ありません。
- N4 本村 泰清 お陰様で何とか平穩に過ごしております。
- N4 門間 善四郎 一応年相応の健康状態で過ごしています。先般同期(4N)の廣瀬兄、松野兄、本村兄、田家兄、庄司兄、愚生の 6 名で会食する機会が有り、楽しい一刻を過ごしました。海神会の発展と関係者の健康を祈願します。ご苦労さまです。
- E4 岸川 豊 交通事故と今年の神戸での 4E 同窓会でのホテルでの足の骨折でまだ充分歩けずに居ます。
- E4 北村 道夫 80 を越え先ず「健康第一」と思いながらたいしたことはしていない。出来るだけ歩く、テレビを見て一日中ゴロゴロするのは避ける。などが主な注意事項です。興味があるのは AI がどこまで進歩？するのかです。
- E4 塩崎 雅敏 元気です。ご返信が遅くなって失礼しました。ご出席の皆様に宜しくお伝え下さい。
- N5 廣田 孝夫 ボチボチ元気でやっております。3 月には 9 日ゴルフをやりました。そろそろピンコロリンといきそうです！！
- N5 安井 光男 職をリタイアして 9 年になります。毎週日曜日、公民館での裸婦デッサン会幹事を務めて何拾年にもなりますが体力、気力、金力総てに衰え誰かに交代したいのですが、してくれる人が居ません。海神会の益々のご発展を願っています。
- N5 吉川 渉 総会には 30 分程遅れますが宜しくお願いします。
- E5 中村 智信 頸部リンパ腫病(リンパ腺腫のガン)治療中、体調不良のため欠席させて頂きます。
- E5 吉村 耕治 腰痛がひどくまいっています。心身共に元気なつもりですが歩く姿は完全にオジンです。
- E5 安原 武臣 後期高齢者に適当と健康と趣味を兼ねて細々と続けてきたゴルフも腰痛に見舞われ、ままならない今日此の頃です。海神会の益々の発展を祈念いたします。
- N6 内田 直行 海神会の活動にご尽力下さり誠に苦労様です。今回の定時総会・懇親会は先約の予定が私事ながら詰まっております、不悪欠席のやむなきに至りました。盛会を祈念しております。体調は申し分なく元気です。皆様によりしくお伝え下さい。
- N6 大谷 浩二 ご案内ありがとうございました。実は 4 月末頃から身体に変調を来し日変わりで動く様な状態。斯様な次第で、特に帰路に心許なさを覚える為、今回は欠席します。暑くても夏の高気圧に覆われ気候が安定すれば体調も安定して来ることだろうと樂觀視はしています。ご盛会を祈ります。
- N6 寺島 威夫 元気に過ごしています。
- N6 中川 靖之 サックスの先生の指導のもと、受講生(20 才から 62 才まで 10 数名と 77 才の高齢者、私 1 名)が集まりコンサートを開催した。終了後、飲み会があり楽しい一時を過ごした。若い人との交流がゴルフだけだったのが、少し広がった。今後も続けます。
- E6 上村 建二 仕事人間で元気なうちはと少し仕事をしております。社会との繋がりが出来ることに感謝しております。
- E6 豊田 濟 本人は普通に生活しているつもりです。ここ 1 年半位北九州と川崎を約 1 ヶ月毎行ったり来たり(義母 97 歳)の介護のためです。
- N7 河原 好功 脊椎管狭窄症に罹り、ゴルフも駄目かと思ひながら整形外科で腰部の運動を続けた結果徐々に良くなり、今は元気で週 2 回はスポーツクラブへ、あるいは 37 年卒神戸大学の仲間と山歩きや、ゴルフを楽しんでおります。これもあと何年できるやら。本会の盛会を祈ります。
- N7 平倉 浩一 つくば市で 40 年間営業した並木そば店を売却し 6 月からはウラの畑でノンビリと作物作り

に精進したいと思います。皆様との再会・出会いを楽しみにして居ります。いつもお世話いただき有難うございます。今後共よろしくお願い致します。

N7 森本 靖之 神戸大同期の連中と毎月集い、山歩きをしたりゴルフをしたりと和気藹々で楽しく過ごしています。

N7 山崎 重勝 当日、所用有り総会及び懇親会を欠席いたします。ご盛会を祈念いたします。

N8 柊 昌夫 地元牛久市で行革推進委員を勤めています。英語・漢文サークル、走友会、史談会にも顔を出しています。

E8 秋葉 光宏 健康第一と心掛け年金生活を楽しんでおります。最近の心配事は景気です。それ以上にストレスが溜まるのはロシア、中国、北朝鮮の生意気な態度です。米国も衰えたが日本もダメですね。専守防衛方針がダメですわ。心配症いや心配性ですかね？

E8 東 紀元 このところ海神会(深江)、支部会に遠ざかり気味で申し訳ありません。6/24 関東支部総会に初めて参加させて戴きます。未だに鈍行列車の旅を楽しみながら京都府唯一の村、南山城村を往来するのが一つの楽しみとなっています。あとしばらくこの元気を持ち続けたいと思っています。

E8 牟田 俊臣 年相応に頑張っています。

E8 山下 恒彦 自宅近くの散歩道からは浦賀水道が見下ろせます。毎日行き交うタンカーやコンテナ船を眺めながら往時の自分を懐かしみ 5 月に無事喜寿を...。お陰様で日々健康裡に過ごしています。

N9 堺 忠彦 今年から後期高齢者の仲間入りで年相応の身体・精神状態です。

E9 小田 英機 元気に毎日を過ごしています。

E9 小串 南海雄 いつも支部便りの送信有難う。楽しく読んでいます。さて、首記の総会及び懇親会は先約がありまして出席できません。私は 74 歳でして、後期高齢者が目前の年となりました。月 2~3 回のゴルフで友人とのコミュニケーションをとりながら、体力維持に努めています。神戸商船大学の名前が消えたのが、時代の流れとはいえ一抹の寂しさを感じます。

N10 竹中 重高 一昨年まで東京湾水先人を勤めておりましたが、今は完全な年金生活です。暇かと思いきや何だかんだと催しにお付き合いにと忙しく日々を送っています。

E10 安藤 雅夫 参加できませんので、宜しく願います。又、理事についても、地元での活動で追われており、退任をお願い致します。

E10 國井 正明 賃貸ふるさと農園早いもので 7 年目、玉ネギ、キュウリ、ナス、ジャガイモと狭い場所に一杯です。足腰の老化を感じながらゴルフの技術アップに一生懸命ですが、スコアには結びつきません。

E10 福永 陽司 出張につき欠席致します。

N11 竹橋 由進 総会当日は旅行中のため役員でありながら出席できず誠に申し訳ありません。海神会関東支部総会のご盛会を祈って居ります。

E11 井崎 宣昭 多少はアチコチが悪くなっておりますが、元気にしております。今回は出席を予定しておりましたが先約があり出席できません。申し訳ありません。盛会を祈ります。尚、海洋会は「万歩の集い」に家内共に参加させてもらっています。

E11 松尾 健司 いつもご連絡有難う御座います。私は年相応に体のあちこちに不具合が出て来ておりますが、何とか生活しております。今年は卒業 50 周年で 11 月の同級会を楽しみにしております。

N12 大谷 紀久彦 残念ですが所用あり欠席します。卒業後 50 年が過ぎました。海上勤務経験は短く大半を陸上部門で会社員人生を送りますが、日本海運の動向が気になります。外国人船員に肩代わりしてもらいながらですから、乗組員を供給してくれている諸外国と良好な関係を維持出来るようにと願っています。

N12 高石 勝 体調に合わせ、水先業務に就いております。ご盛会を祈念します。

N13 中田 雄一郎 6/22 より北海道にゴルフツアーに行きます。欠席すみません。

- N13 日高 道雄 今年 4 月末で(株)MOL マリンを退職、毎日が日曜日の生活に入りました。
- E13 田中 貴雄 深道会(神船大柔道部 OB 会)代表世話人を引き継ぐことが出来ホッとしています。地域 NPO 等で”今日行く”、”今日用”に励んでいます。
- N14 鬼塚 雄介 完全リタイアに備えソフトランディングすべくフルート、絵画そしてフランス語の各教室に通っています。クラスメイトはどれも女性ばかりで、そのパワーに圧倒されています。
- N 14 笠原健夫 事務局及び幹事の皆様ご苦勞様です。退職後は日本丸、海王丸の水彩画を趣味で描いたりウォーキングで体力維持に努め、またコンピューターとの囲碁対局で呆け防止に努めて元気にやっております。海神会の発展をお祈り致します。
- N14 島津 信之 趣味のウクレレを楽しんでいます。
- N14 中村 浩司 昨年、家内に膵臓癌が見つかり現在も投薬治療中です。看護のため家を空けることが出来ませんので御了解下さい。皆様に宜しくお伝え下さい。
- N14 渡辺 雅史 いちおう、元気にやっています。
- E14 井手 祐之 日本船舶機関士協会で週 3 日勤務しております。
- N15 上野 俊雄 勝手ながら欠席とさせていただきます。すいませんが宜しくお願い致します。
- N15 松下 良興 当日は業務の都合で出席できません。ご盛会をお祈り申し上げます。
- E15 桑田 守 体力維持を目的に体操、筋トレ、水泳、サイクリングなどに取り組んでいます。その結果学生時代の体重+1kg 程を維持できるようになりました。
- E15 道浦 馨 出席させていただきますので宜しくお引き回しの程お願い致します。
- N16 後藤 繁 毎月 2〜3 週間程度 東南アジアを中心に出張しています。
- N16 藤江 哲三 元気で年金生活を楽しんでいます。
- N17 西村 雄二 定年退職者は家に閉じこもり勝ちなのでキョウヨウ(今日の用事)とキョウイク(今日行く所)が大事だそうです。小生も何かと用事を作って出掛けるようにしています。
- E17 小西 正昭 変わりません。午前中働く毎日です。先日のオバマ大統領の広島訪問時の演説に感心しています。さすがノーベル平和賞です。
- E18 金子 仁 お世話になっております。平成 27 年 12 月 25 日に丸善出版株式会から「船の百科事典」(18,000 円)を共著で上梓しました。宜しくお願いいたします。
- N19 松井 幸雄 松井経営労務事務所(URL:<http://松井経営労務.com>)を開業しました。ご用命の節はご連絡ください。
- N19 橋本 信一郎 退職して 4 年、のんびりと年金生活をおくっています。
- E19 中嶋 孝雄 2015 年 6 月完全退職して、伊豆の山奥に引きこまりました。小庵を檜山荘と称して、老いの身を捨てたつもりでございしますが、如何せん元気すぎて薪割り。ゴルフ,etc.で元気が増幅されているような気がします。
- E19 森本 毅 市民農園を借りての野菜作りを楽しんでいます。子供や孫との時間そして自分自身の健康を第 1 に今後も充実した日々を過ごせればと思います。
- N20 長谷川 満 定年後の毎日をのんびり過ごしています。
- E20 神田 一郎 船員災害防止協会に勤務しております。2 年半過ぎました。
- N21 木之田 久美 熊本からの単身生活です。今度の地震で家は少々、家財は半損でした。家族は無事でした。
- N21 平塚 惣一 毎々、ご案内戴き有難うございます。当日所用あり残念乍ら欠席致します。盛会を祈っております。内田先生の”母校の現況”を拝読致しましたが、デッキ/エンジンで判った時代が懐かしいと思うのはトシをとったと云うことですね。
- E21 神杉 恵助 返事遅れて申し訳ありません。よろしくお願いします。

A2 上月 敏章 船舶管理を引き続きやっています。日本人船員は壊滅状態の海運界、岐路に立たされた原子力。大学時代勉強した分野が大きな転換期にあります。仕事の傍ら何故こうなったのか政治や歴史から調べることがあります。国際関係と政治、これが大きいのしかかっているようです。理系の出身といえども今後この視点が重要と思います。

E23 田中 要 2015 年 12 月より香港勤務中です。MOL LNG Transport(Asia)Ltd. 香港へお越しの節はご連絡下さい。

E23 深津 稔 元気でやっています！！

N25 山口 芳孝 当日は作業日のため欠席させて戴きます。ご盛会を祈念いたします。

E26 藤田 恒美 いつもメール配信、ありがとうございます。6/24(金)に開催されます海神会関東支部の総会および懇親会には所要があり、参加できません。会のご盛会を祈念いたします。現在、日本油化学工業という燃料油添加剤等のケミカル製品を製造している会社で、車関係のケミカルの販売を担当しています。皆さんが給油されるガソリンスタンド(SS)の門型洗車機や手洗い洗車機用の洗剤、WAX、コート剤を中心に、カーケア商品全般を扱っています(業者向け)。どの業界も同じような状況かもしれませんが、オートケミカル業界は、油社の統合や SS 数の減少影響で、四苦八苦しております。

A6 小久保 孝 原子力担当部長を勤めており、リニアコライダーの日本誘致活動にも頑張っています。

N27 国枝 佳明 いつもお世話になります。当日は実習のため欠席させて戴きます。最近帆船実習や汐路丸実習の一部を担当させてもらっています。昔のようには、なりません。少しでも潮気のある生きのよい学生を育てたいと思い挑戦しています。総会及び懇親会が盛会でありますよう祈念いたします。

A9 真鍋 豊之 九州でやっと原発が再稼働したものの、まだまだ全国に廻って来ず早 5 年が経過しました。労働多く得るもの少ない水面下の毎日であります。

E30 板谷 晋行 三洋電機⇒パナソニック⇒富士通と部署ごと社名が転々と変わって居りますが、大病にもかからず家族 5 人群馬で無事に暮らしております。

E30 小林 唯人 ご連絡大変ありがとうございます。大変申し訳ありませんが定期総会は欠席とさせていただきますようお願い申し上げます。何かお手伝いすることがあればご遠慮なくご連絡お願いします。少し体調をくずしておりますので、時節柄かぜ等ひかないようにお体には十分気をつけてください。

K2 西尾 幸 三洋電機から事業譲渡で離れましたが、事業が上手く行かず、譲渡先の関連会社に転籍いたしました。現在、ひたちなか市に単身赴任いたしております。定年を迎えるまでこちらで過ごすことになりそうです。週末には、群馬に戻っております。

K2 牧野 正純 折角のご案内ですが、業務の都合上欠席とさせていただきます。

T3 鈴木 勝章 起業して 3 年、何とか無事に運営しています。

N32 小縣 充洋 いつもご案内有難う御座います。ニューヨーク駐在が終わり帰国しております。また参加させて戴きます。

N36 寺島 慎 2 年間の海上勤務を終えて休暇に入りました。深江の後輩は元気に頑張っていました！！(6 月まで海王丸船長でした)

T9 格谷 隆 24 日は 18 時まで業務とその後接待出張があり、16 時～17 時のみであれば、抜け出して一度出席したいと思っておりましたが、調整ができませんでした。毎度欠席で申し訳ございませんが、同会に一任致します。宜しくお願い致します。

BE39 山下 貴仁 東京生活も早 6 年を迎え、この春念願のマイホームを購入しました。白鷗寮の名言”常に気力と体力を！！”をモットーにこれからも頑張ってお参ります。

BN41 近藤 裕之数少ない商船大卒の仲間が集える場として、今後とも海神会、および関東支部が益々ご発展されますよう心より祈念いたしております。

BP1 實重 宏明 廃炉作業に従事しています。

BN47 上島 裕介 現在 外地のコンテナ船に乗船中のため欠席させていただきます。(代筆 妻)

087 鈴木 育実 支部活動運営お世話になっております。海上勤務中の為欠席いたします。

6. 会員往来 (事務局判明分)

6.1 関東以外の地へ移られた方々

N18 稲田 博 広島市に転居しました。

E19 中嶋 孝雄 2015 年 6 月完全退職して、伊豆の山奥に引きこもりました。小庵を檜山荘と称して、老いの身を捨てたつもりでございますが、如何せん元気すぎて薪割り。ゴルフ,etc.で元気が増幅されているような気がします。伊豆市

E34 山中 正司 連絡有り難うございます。韓国に在住しておりますので、伝えたい事がありましたらメールにてお願い申し上げます。

BN42 松下 幸司 去年よりシンガポールに家族で転勤しました。5 年間は帰ってきません。これからは宜しくお願い致します。(実家の母より)

6.2 物故者 (事務局に連絡戴いた方々です) 合掌

E12 村瀬 和彦 平成 27 年 7 月 12 日逝去 残念なことではございますが、本人 村瀬和彦は、昨年 7 月 12 日胸膜性肺炎により病没致しました。これまでのご連絡及び関東支部のとりまとめ等お世話を戴き有難うございました。同窓会の今後のご発展を祈念いたします。皆様へのご報告とお別れのご挨拶と致します。妻 寿子

N16 福岡 眞 平成 28 年 2 月 23 日逝去 海洋 5 月号より

E20 田代 一視 平成 28 年 1 月 5 日逝去 主人は今年 1 月 5 日にガンで永眠しましたのでご連絡申し上げます。お世話になりました。田代 一視妻

6.3 事情あって郵便等をご遠慮された方々

専 1 斎藤 和夫 当年 80 歳、平均余命 5 年となりました。肉体的な老化を感じる日々です。支部会員はこれで最後に致したいと思います。海神会関東支部の充実・発展を祈念いたします。深謝。

N5 青山 玄 体調不良のため、今後、海神会、案内等要りません。よろしくお願いします。

E10 松村 哲雄 今後同窓会関連の連絡は送付戴かなくて結構です。

N15 長谷川 潔 H28 年度の年会費と終身会費を納められ、年会報の郵送は不要。

7. 会員の広場 “Bridge”

7.1 海事博物館 企画展『神戸における海技者教育 100 年の歩み(前編)』(7 月 15 日～10 月 31 日)

7.2 7 月 28 日(木)木曜会で武田学長が「先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学へ」として講演

7.3 海事科学部 (Web サイト http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/news/news_2015.html から)

4 月 18 日 大学院生 森田栄太郎さんが平成 27 年度電気学会優秀論文発表賞を受賞

4 月 26 日 大学院生 吉原広太郎さんが平成 27 年電気学会優秀論文発表賞を受賞

5 月 19 日 大学院生 王麗(Li Wang)さんが日本マリン・エンジニアリング学会奨励賞を受賞

6 月 20 日 第 16 回「テレビ朝日新人シナリオ大賞」を寺下 佳孝(海事科学研究科博士課程前期課程)さんの「ずるいよ、みんなっ!」が受賞

7 月 8 日 北澤裕明さん(平成 27 年 9 月博士後期課程修了)が日本包装学会奨励賞を受賞

7 月 11 日 北澤裕明さん(平成 27 年 9 月博士後期課程修了)が日本包装学会論文賞を受賞

7 月 16 日 福岡教授がアメリカ機械学会圧力容器配管部門からベストセッションに選ばれ受賞

7.4 海洋会 (Web サイト: <http://www.kaiyo-kai.com/category/news-from-secretariat> から)

6 月 19 日 N15 上野俊雄さんが幹事として”万歩の集いー史跡の文庫文教地区周辺を訪ねるー”を開催

8. 事務局からのお知らせとお願い

8.1 関東支部の年会費、終身会費(70才以上の方)の納入のお願い

支部総会の案内(5月末)とMy近況を載せた“関東支部便り”の発送(11月末)等により会員相互の交流・親睦を図っており、これらの経費には皆様からの支部年会費(千円/年)を充てています。関東支部活動の輪・和を広げ皆様に楽しむためにもご支援ご鞭撻を下さいます様改めてお願い致します。

封筒宛先の学籍番号に続いての英小文は k:H28 年度、l:H29 年度、m:H30 年度、...と本年度以降の支部年会費の納付状況(10月10日)、 「寿」は終身会費を納入頂いた方(93名)を表していますのでご確認ください。なお、無印の場合は、本年度の年会費が未納ですので、同封の払込取扱票に必要事項を記入して“ゆうちょ銀行”で振替して下さいますようお願い致します。

8.2 同窓生のネットワーク体制をより確固とするためにも、各クラス会の幹事役の方は E-mail のアドレスを事務局に連絡をお願いします。

海神会関東支部(神戸大学海事科学部同窓会関東支部)

事務局 (議案書の作成、会員動向の整理、総会の案内などの通信業務、本部との連絡など)

住所:〒373-0817 群馬県太田市飯塚町 1084-36

田中 貴雄 (海神会関東支部 理事・事務局長)

E-mail:kajinkaikantoh@yahoo.co.jp ご意見等事務局への連絡にご利用ください。



☆学生の活躍☆

オフショアセーリング部

神戸大学体育会オフショアセーリング部主将の藤野 功貴です。

我々オフショアセーリング部はクルーザーヨットでセーリングをする部活で、現在 100 人以上の部員が在籍しています。クルーザーヨットとは、キャビンなどの生活スペースを備えたヨットであり、複数人で一つのヨットを動かすため、チームワークが非常に重要なスポーツです。また、ほとんどの人が大学から始める競技なので、大学で新しいことに挑戦したい人には特に魅力的なスポーツと言えるかもしれません。主な活動としては、クルージングとレースがあります。普段は海事科学部深江キャンパスに係留しているヨットで練習してセーリングの技術を磨き、月に 1 回クルージングをしたり、レースに参加したりしています。最も長期間のクルージングは、夏休みに行く夏クルージングで、徳島や和歌山まで行っています。また、毎年 3 月に全日本学生外洋帆走選手権という大学対抗の全日本選手権があり、現在 2 連覇中です。この大会で優勝すると、10、11 月にフランスで行われる学生外洋帆走世界選手権の出場権を得られるため、世界大会出場を目標に日々練習しています。今年は、**11/1-7 の世界大会**に出場しました。その結果や日々の活動の様子は、ホームページ (<http://kuosc-sailing.sakura.ne.jp/>) や Facebook (<https://m.facebook.com/offshoresailingclub/>) に載せていますので、是非ご覧下さい。



∞研究紹介∞

船舶を活用した災害対応活動支援 ～海からのアプローチ～

神戸大学大学院海事科学研究科 小田 啓二

1. はじめに

東日本大震災から早や5年が経過した。福島第一原子力発電所をはじめ、まだまだ復興には時間を要していることを考えると、さほどの貢献もできずに日常生活に追われている自分を情けなく思う毎日である。さて、5月28日に開催された海神会総会後に、寄稿の依頼を頂戴した。研究内容を分かりやすく紹介するということで、丁度少し前にまとめた原稿を、(一財)電子科学研究所の承諾を得て、一部転載させて頂くことにした。

本稿では、大震災を機に、筆者及び筆者の仲間たちが考えてきた災害対応活動に関する提案、即ち、対応活動に船舶を活用するというアイデアと、その研究の一部を紹介する。これらは、筆者の所属機関と経歴に関係があるため、まず簡単に自己紹介をしておきたい。

かつては重宝された無煙炭が採掘されていた大嶺炭鉱の近く（山口県美祢市）に生まれたが、時代は既に石炭から石油に変わっており、閉山のため人口減少が加速されていた。同じ炭鉱の町であったがいち早く化学工業に転換していた宇部という少し大きな所の高校に進学した。ちなみに、宇部高の先輩には菅直人元首相やユニクロの柳井正会長などがおられる。サッカーと深夜ラジオを聴きながらの勉強という生活だった高校2年の時（1973年）に第一次オイルショックが起こった。エネルギー源としては石油から原子力に大きく変わろうとする時代だった。原子力工学科（大阪大学）を選び、放射線計測（線量計測）を専攻して大学院を修了し、1985年に神戸商船大学原子動力学科に赴任した。この学科は、原子力時代の輸送船の運航要員を養成することを目的として1972年に設置されたが、当時のリーダーであった故道嶋正美教授の手記によると、原子力商船の運航要員養成を旧帝大の原子力工学科で行うべきか商船大学が担うべきかと言う議論の末、近くにある阪大・京大の支援が得られやすいということもあって、神戸商船大学だけに置かれることになったとのことである。学生定員40名と教員4講座12名が純増という、他に例がないような措置（某文科省職員によると「画期的な出来事」）であった。

赴任した翌年1986年にチェルノブイリ事故が起こった。スリーマイル島原発事故の時には大学院生だった筆者には、このTMI以上の過酷事故は起こる筈はないと思っていただけに、大きな衝撃を受けた。これが後年の放射線教育や原子力オープンスクールなど、知識普及活動のモチベーションになっている。

1995年、阪神淡路大震災を経験する。自宅は西宮市の北部だったので一部損壊で免れたが、埋立地に立地していた神戸商船大学はもろに影響を受けた。この時、いくつかの商船高専や航海訓練所の船舶が来神してくれ、必要物品の輸送だけでなく、炊き出しをしてくれた。本学に避難された近隣の方々からは、他の避難所と比べて暖かい食事を提供できたので最後まで感謝された。研究活動に戻れたのは、およそ半年後だったと思う。それまでに進めていた放射線計測技術の開発だけというテーマでは他大学と同じであり、何とか神戸商船大学の特徴を活かした研究をしなければ、と考えるようになったのもこの頃で、第4節で紹介するアイデアがそれまでの葛藤の集大成であると言える。

2. 災害時の船舶活用の検討例

もともと船舶には、運搬能力だけでなく、自立性（独立性）と機動性を有していることは皆さん

ご存知のとおりである。阪神淡路大震災後に神戸商船大学ではいくつかの船舶活用に関する研究が行われた。

井上 欣三教授（当時）等は、大量の水と電気を必要とする人工透析が不可欠な慢性腎不全患者さんへの支援を目的として、特別の装備がない船舶を災害発生時に即座に組織化して海からの支援を行うシステムを提案した。故石田 憲治教授等は、震災直後に救助・救援活動に参加した船舶（瀬戸内海、九州北部、四国南部）の調査と分析を行い、初動対応が遅れたこと、情報の共有化及びネットワークが不十分であったこと、そのため、各船舶の役割分担ができていなかったことなどの問題が明らかにした上で、経過日数によって3つの時期に分類し、各々の主要目的に応じた船舶を調達すべきとの結論に至っている。

3. 大型国際医療貢献船構想

東日本大震災後およそ3ヶ月経った頃、それまで面識のなかった浅野 茂隆先生（東京大学医科学研究所退職後、当時は早稲田大学特任教授、神戸大学客員教授兼任）から連絡があり、震災前から考えておられた病院船構想を発展させたいので、海事科学部長としての意見を聞きたいとのことであった。アジア地域では医師・看護師・助産師が不足していることと津波や地震など自然大災害の発生頻度が高いことから、我が国の国際貢献という観点からも大型（3,000 トン以上）病院船を持つべきであるという持論であった。この中で、最先端医療技術の伝承を含む人材育成（教育）を盛り込むべきであり、医学部と海事科学部の両方を有する唯一の大学である神戸大学が前面に出るべきとの指摘も頂戴した。この後の雑談で、宇部高校の先輩であることが分かり、以後、本構想に参画することになった。

災害時の船舶利用の有効性は誰もが認めるものの、専用船の保有には、建造費・維持費の捻出、多くの省庁（厚生労働省、文部科学省、国土交通省、防衛省など）にまたがるため調整が難しいことや平時の利用等の問題があり、実現には至っていない。そこで、民間の資金注入・運営を視野に入れるとともに、平時にはアジア諸国への最先端医療の提供とそのための人材育成を組み込んだ「国際医療貢献船」というアイデアを提唱している。

この実現を図るため、「病院船建造超党派議員連盟」（議長：衛藤 征士郎衆院議員）と協働するとともに、民間の有志から成る「多目的民間病院船運航会社設立準備委員会」等との連携を進めている。これまでは、2011 年 6 月のキックオフシンポジウム「最新鋭国際健康医療支援船プロジェクト」（早稲田大学）に始まり、海事科学研究科戦略的シンポジウム「病院船」（同年 9 月、神戸大学）、さらに 2012 年 5 月には公開シンポジウム「国際医療貢献・病院船団」（参議院議員会館）を開催し、議員連盟の先生方の意見も伺った。同年及び翌 2013 年度に内閣府の中に「災害時における多目的船に関する検討会」が置かれ、委員に選ばれた浅野先生の支援を行った。2013 年 1 月には超党派議員連盟事務局山東 昭子議員とともに、浅野先生と筆者が菅官房長官へ提言書を直接提出するなど働きかけを行った。

4. 海上移動型放射線モニタリングシステムの開発

前節までの経験を踏まえて、本学の特徴を発揮できる新たな研究テーマとして、原子力災害時に、必要な機材と専門家が乗り込んだ練習船が急行し、海上前線基地として緊急時放射線モニタリングを行う、というアイデアを提案した。幸い、平成 27 年度の文科省委託事業である「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業（原子力基礎基盤戦略研究プログラム）戦略的原子力共同研究プログラム」に採択された。本節では、「船舶を活用した海上移動型放射線モニタリングシステムの開発」の3年間の計画の概要を紹介する。

4.1. 背景と目標

東日本大震災以前の原子力災害への対応は、原子力施設から 20km 内に設置されたオフサイトセンターが核となり、国・自治体・事業者・専門家など関係者が一体となって「原子力災害合同対策会議」を組織し、迅速に有効な対策を行うことになっていたが、福島原発事故の場合には、津波のためにこの陸上の拠点の機能が喪失した。これを受けて、オフサイトセンターの構造や設置場所の見直しや代替施設の指定などの対応が考えられており、また同時に、原子力災害に関する情報のとりまとめや官邸をはじめとする中枢機関の当時の対応に関する検証と反省を踏まえて、原子力災害対策指針の改訂が行われた。

この改訂では、確かに情報の一元化や指揮系統の統一が図られているものの、中央ですべての最適な判断を迅速に行うことは難しい。一定範囲内での裁定権を現場に持たせ、現地で即座に判断できる余地を残すべきではないだろうか。また、放射線モニタリングに限っても、陸上に置かれたモニタリングポストや移動式モニタリング車が用いられることになっているが、サイトによっては船舶による住民避難も想定されているにも関わらず、海側のモニタリングへの考慮が不足している。

このような背景から、陸上のオフサイトセンターの機能を補完し、場合によっては一時的に代替するひとつの対応として、「船舶を活用した海上前線基地の設置と海上移動型モニタリングシステムの確立」という大きな課題を設定することができる。ただし、このような国家規模の課題のすべてを一気に解決することは困難であるため、本プロジェクトでは、この実現に向けた第一段階として、文部科学省下の教育機関が現有する施設・設備・研究機器と人的資源を用いてこの課題に取り組み、新たな海上でのモニタリングシステムの設計・構築のためにはどのような具体的な問題があるか、また現状では何が不足しているかを種々の観点から検討することにした。最終的に国、原子力規制庁あるいは国際機関を含む関連諸機関への提言をまとめることを目標とした。

4.2. 具体的な検討課題

提案しているシステムの実現のための検討課題は、前線基地となる船舶の運用、船舶への海上前線基地機能の移植、災害対策システムへの組み込みに大別することができ、さらに各々には、以下に示すような検討すべきいくつかのサブテーマが考えられる。

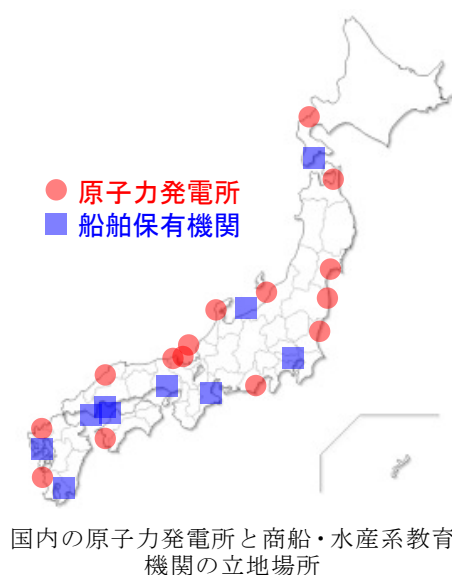
前線基地となる船舶の運用

①協力船舶・運航要員の登録とネットワークの整備

右図は、原子力発電所サイトと練習船を有する商船系大学・高専及び水産系学部の立地場所を示している。このように、事前にこれら大学・高専の理解が得られるならば、(日本海側が手薄になりそうではあるものの) 発災したサイトに最も早く到着できる練習船が急行するというネットワークが整備できそうである。現在、各校を訪問し、趣旨説明をしているところである。将来的には、航海訓練所などその他省庁や研究機関に所属している船舶まで広げる必要があろう。

②船舶職員に対する放射線レクチャー

筆者等は、原発事故直後に、注水作業を分担する予定であった神戸市消防局、及び福島原発周辺海域の巡視を担当する第五管区海上保安本部からの要請を受けて、派遣メンバーに対して放射線の基礎知識に関する初歩的なレクチャーを担当した経験がある。被ばくに対する不安を軽減するためには、船舶関



係者に対するレクチャーは、必須準備項目のひとつとして重要である。

船舶への海上前線基地機能の移植

③練習船内の装備及び放射線対策

船外の適切な場所にモニタリングポストを設置し、常時外部線量率を計測する。また、汚染物質の取扱い等も考えられるので、コンテナラボや除染テントなどの設置の可能性も検討しておく必要がある。現時点での計画では、あらかじめ線量率レベルを設定しておき、それを超えた場合には近づかないことにしているが、原子炉の状態が急変した場合を想定し、比較的線量率が低いと思われる船底付近のスペースへの避難、遮蔽措置、換気及び線量低減措置について検討しておく必要がある。なお、必要な放射線防護機材についても事前に選択・準備しておくことになる。

④測定機器の選択及びパッケージ化

練習船内のスペースは限られているため、必要最小限に抑えておく必要がある。これまでに開発されているモニタリング装置を調査し、この要件を満足する船舶搭載用として最も適切な測定器セットを選定する。場合によっては改造または新たに設計・開発し、これらをパッケージ化しておく。これらパッケージは、国内のいくつかの場所に保管しておき、急行する船舶に搭載することになる。

⑤海上移動型モニタリングシステムの開発

あらかじめ設定した放射線レベルに達した場合及び気象など他の要因によっては船舶が原子力発電所に近づけないこともある。近接可能な位置でのモニタリングに加えて、無線操縦の無人飛行体（ドローン）に搭載した測定器の利用も想定し、データ通信方法も考慮して、搭載すべき測定機器の小型化を検討する。

線量率がさらに高い場合には、航続距離の制約からドローンが使えないこともある。その場合には、無線操縦或いは自動走行の小型ボート（または、海象の影響を受けにくい水中移動体）の利用が有効だと考えられる。

災害対策システムへの組み込み及びその他項目

⑥既存の災害対策システムへの組み込み

提案している海上基地設置構想を現在の原子力災害体制に組み込む際の法的・制度的な課題を検討する。また、国内外のガイドライン等との整合性についても考慮しておく必要がある。

⑦練習船を用いた航海実験

本研究テーマの最終成果の確認のために、練習船「深江丸」または大島商船高専所有「大島丸」による航海実験を実施する。放射線測定システムや防護装備等一式を搭載し、放射線専門家及び本研究課題関係者が乗船し、原子力発電所（伊方／浜岡）またはその代替として火力発電所（御坊）周辺を航海し、担当者がロールプレイを行う。

なお、このプロジェクトの実施体制としては、神戸大学海事科学研究科が中心となり、研究基盤センター（ラジオアイソトープ部門）と海技教育センターとの学内連携に加えて、船舶ネットワークについて大島商船高専と、主に測定システム開発に関しては放射線医学総合研究所と、さらに、災害対応については自治体との協働体制で実績のある福井大学附属国際原子力工学研究所との共同研究としている。

4.3. 本着想の特徴と発展性

過去に検討された医療への船舶活用は、装備が特殊であることと医療関係者や医療用具の調達に手間取ることが予想され、緊急時に通常の船舶を転用することは難しく、このため、医療専用船（病

院船)の建造が必要であるという結論に至っている。これと同様に、「原子力災害専用船」を保有するという案も考えられる。しかしながら、少なくとも数百億円と推定される専用艦を新たに建造して防衛省の中で保有し続けるには、原子力・放射線の知識と経験を有する特殊班の育成と維持も含めて多くの課題があり、実現のためには相当の費用と時間を要するであろう。これに対して本テーマで提案しているシステムでは、必要な測定器・装備一式をパッケージ化して適切な場所に保管しておくとともに、協力船舶及び放射線専門家を事前に登録しておき、有事の際にそれらを船舶に搭載・乗船するというもので、新たに専用艦を建造しそれを常備配置する計画と比べると、はるかに実現性が高いと考えられる。

原子力・放射線安全は原子力発電とともに原子力利用の両輪となるべき基盤技術であり、福島原発事故を経験した我が国は、高度の、かつ世界標準となるべき安全システム技術確立すべきである。今後、世界各国で原子力発電所の建設が増加することが予想されているが、アジア地域での建設予定地の大半は沿岸であると同時に自然災害多発地帯でもあることから、有事の際の安全システム技術は、我が国がリードする重要な原子力基盤技術のひとつとして、原子力発電所本体とともにセットで輸出されるべきであり、国際貢献につながるであろう。

5. おわりに

本稿で紹介した船舶を活用した海上移動型モニタリングシステムは、陸上に設置されたモニタリングポスト等による受動的な放射線データ収集システムに、多様性及び相補性、即ち、「海の道からのアプローチ」という新たな視点を加えたことに革新性がある。「海上の前線基地」の機能を持たせるという緊急時対応システムは、船舶(附属練習船)を保有しており、かつ、前身の神戸商船大学時代に原子力船運航要員の養成のための国内唯一の学科が設置されていたという歴史を持っている海事科学研究科で生まれた独創的なアイデアであると言えよう。筆者は、この研究を通して「神戸商船大学原子動力学科」のDNAを残したいと希望している。

最終目標としている「海上の前線基地」構想は、我々の視点だけでは不十分であり、色々な方面からの検討や、様々な観点からの提案を組み合わせでより良いシステムに高めたいと考えている。第3節で紹介した病院船構想は、多くの問題があって膠着状態となっているが、このプロジェクトについては、少なくともプロトタイプ的设计までは進めたいと考えている。さらに発展させて実現に近づけるためにも、読者の皆様からのご意見やサジェッションをお待ちしています([アドレス ada@maritime.kobe-u.ac.jp](mailto:ada@maritime.kobe-u.ac.jp))。

編集後記

今号には大学の一端に触れて戴くことも願い、小田副学長から「船舶を活用した災害対応活動支援」の寄稿を、国際舞台で活躍のオフショアセーリング部からは現況の寄稿を戴きました。厚く御礼申し上げますと共に皆様方からのご支援をお願い致します。

支部行事に多くの方の参加と”関東支部便り”に多くの同窓生からの記事を戴き、同窓の「絆」を深めるためにも、当番幹事制(案として来年度は入学年が1961・71・81・91&2001年の代表者で構成)を設けてはと提案を受けています。同窓会を盛り上げるためにも同窓の和・輪・環を拡げ多くの方に同窓会に参加戴きたく、開催日を含め支部運営にもご意見をお待ちしています。

先日、奥日光に紅葉狩りと洒落てみたところ、湯元から刈り込み湖への途中で、樹上で木の実を食べている猿に出会いました。限られた予算内の行事ですが、定時総会・懇親会に加えて年に1回でも野外行事に取り組むことが出来るといいなあ…!